小倉記念病院 循環器内科だより

2017.12月

バイパス術がこの病気の第一選択となっ 再狭窄、再閉塞が問題となり、外科的 するこれまでのステント留置術では、

曽我芳光。彼は前院長 延吉正清の 牽引しているのが、循環器内科部長 下肢動脈血管病変への内科的治療を

グラフトが登場した。長区間病変に対

2016年 12月、浅大腿動脈の長区

間病変に対してバイアバーンステント

に生じる再狭窄、再閉塞が低減され、 ラフトが登場したことにより、慢性期 病変は内科的治療の大きな壁となっ めに、下肢救済に取組んできた。 より患者の歩ける幸せを奪われないた に気を配らないといけない。そして何 下肢の動脈だけではなく全身の動脈 どにも病変がある可能性が高いため、 る患者の多くが、心臓や脳、頸動脈な り、下肢動脈血管の閉塞を起こしてい 下肢の動脈硬化は最後に起こる。つま の一言で下肢治療の道を歩み始めた。 ていた。そこにバイアバーンステントグ 「足の病気の長期予後を調べて欲しい」 しかし、これまで浅大腿動脈の長区間

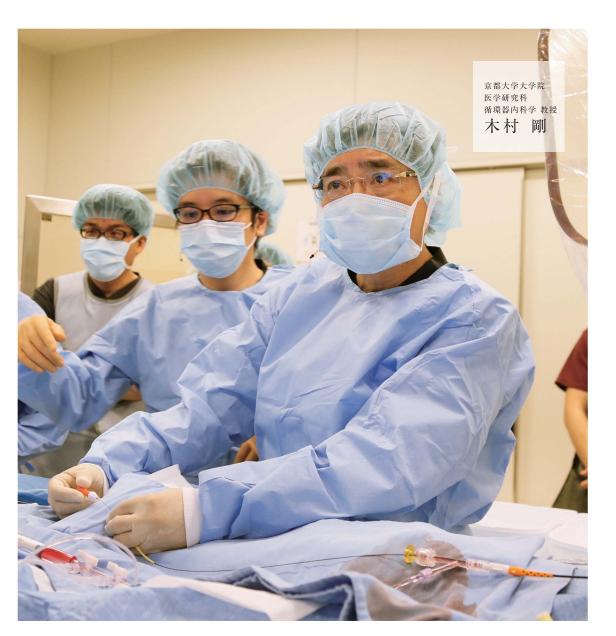
明日への一歩をつなげている。 たり前でいられるように、彼は今日も 人はいない。この当たり前の日常が当 健康な時に歩ける幸せを感じている す。」と答えるようにしている。普段、 の?」と聞かれた時には、「歩くためで 彼は「循環器の医者が何で足を治す 待されている。 外科的バイパス術と同等の結果を期





第28回 小倉循環器内科セミナー

日時/2018年1月30日(火)19:00~21:00 場所/リーガロイヤルホテル小倉 3階 エンパイア



〈座長〉小倉記念病院 診療部長・循環器内科 主任部長 安藤 献児

第1部

リードレスペースメーカについて

小倉記念病院 循環器內科 副部長 永島 道雄

第2部

日本人冠動脈疾患患者における 2次予防薬物治療についての最近の知見

京都大学大学院医学研究科 循環器內科学 木村 剛教授

終了後、情報交換会を実施させていただきます。

共催:小倉記念病院 循環器内科 日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社



1月24日(水) 迄に、同封しておりますセミナー参加申込用紙に、必要事項を ご記入の上、小倉記念病院 医療連携課までFAXにてご返信ください。

医療連携課 FAX.0120-020-027

イ 小 倉 記 念 病 院

〒802-8555 北九州市小倉北区浅野3丁目2番1号 TEL.093-511-2000(代表)